

研究チーム名：自分らしく生きることのできるまちづくり

リーダー：社会福祉学部 教授 齋藤昭彦 サブリーダー：名誉教授 小川晃子

分担研究者：佐藤哲郎（社会福祉学部・准教授） 菅野道生（社会福祉学部・准教授）
 伊藤隆博（社会福祉学部・講師） 小柳達也（研究地域連携本部・客員准教授）
 樽松理樹（ソフトウェア情報学部・准教授） 千田睦美（看護学部・教授）
 池田清（研究地域連携本部・客員准教授）
 長谷川高志（研究地域連携本部・客員教授）
 鎌田博之（盛岡赤十字病院・健診部長）
 鈴木亮二（東北大学病院臨床研究推進センター・助教）

技術キーワード：見守り、AI/IoT活用、コミュニケーション支援、高齢者の能動性、まちづくり

▼研究の概要（背景・目標）

- ・要介護や認知症になっても、本人ができること・したいことがまっとうできるよう、環境を整備することが必要となってきた。
- ・本研究においては、そのための変革（イノベーションの創出）を行うことを目的とするものである。
- ・本人や家族の意識やリテラシーを変え、支援機器やICT技術の適切な活用につなげ、医療・福祉体制を含めた地域の環境（まちづくり）を一体的に行う。

▼研究の内容（方法・経過）

アクションリサーチ：研究者が地域に介入し、多様な関与者と連携してコミュニティが抱える問題の解決策を見出す

▼研究の成果（結論・考察）

これまでのプロジェクト成果を基盤として、新たな実装への展開を開始した。

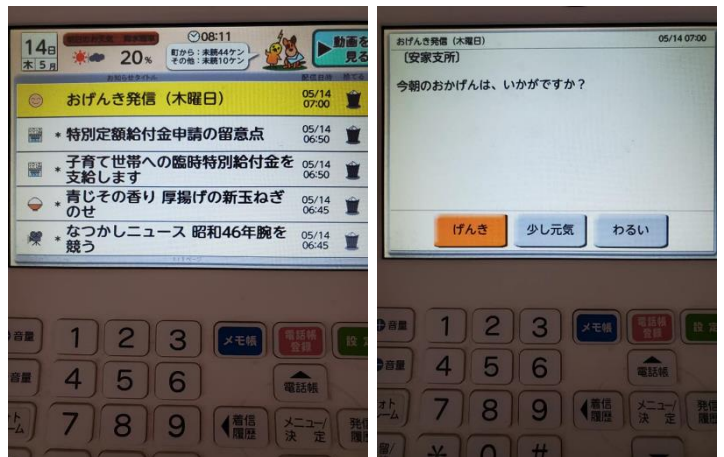
- 1.重層型見守りからAI・IoT活用見守りへ 右の結果1・2参照
- 2.岩手県と連携した地域協働研究 北いわてにおける生活支援型コミュニティづくり
- 3.重度障害者のコミュニケーション支援 研修会を県内各地で展開
- 4.認知症になってもやさしいまちづくりの推進

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

2019年度の成果をさらに推進していく。

- 1.AI/IoT活用見守りーウィズ・コロナ時代のICT活用見守りの推進、AIを活用したケアマネ支援システムの開発、高齢者の遠隔通いの場の開発（共同研究）等
- 2.岩手県と連携した地域協働研究 ー北いわてでの生活支援型コミュニティづくり・県内見守り体制再整備
- 3.重度障害者のコミュニケーション支援 ー共同研究者とのセミナー開催等
- 4.認知症になってもやさしいまちづくりの推進ー株式会社テック研究所等の産と、市民・学・官の連携体制推進

結果1 岩泉町びいちゃんねっとでのお元気発信実装



結果2 AIスピーカーを活用した服薬見守りの開発と社会実験

